

あなたの足元にある課題を解決するための 糸口を提供します

株式会社PPP総合研究所

主任研究員 西村 尚

URL <http://pppsoken.com> (整備中)

☎ 090-6026-9801 (携帯)

✉ nishimura@pppsoken.com

PPP総合研究所

弊社は、2017年4月、社会に現存する諸課題に、「東洋大学が有するPPP(Public Private Partnership)に関する智見」を活用して、改善策・解決策を見出すことを目指し、東洋大学大学院経済学研究所公民連携専攻(以下「公民連携専攻」)の修了生(現リサーチパートナー)を持って設立しました。

現研究員は下記のとおりで、PPPに関連する業務・研究を行っております。

特に、弊社社長兼研究員天神が公民連携専攻修士論文において研究した公共ROA(Return On Asset) (注)にかかる調査を進めています。

- ① 主席研究員 天神 良久 (2017.9 修了)
- ② 主任研究員 西村 尚 (2013.9 修了)

(注) 詳細は、根本佑二 (2016) 公共施設等総合管理計画の実効性を高めるための公共施設評価手法の開発 (<https://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/111670.pdf>)

公共ROAとは

民間の資産の効率性を測る ROA (Return On Asset : 利益 ÷ 資産) を、公共に应用するために

「コスト ÷ 規模」=「規模当たりコスト」

を導入します。これで、多数の利用 / 低効率によるコスト増加を明確にできます。

これに、「規模当たりコスト」に「利用度概念」を導入して要素分解ができます。

「コスト ÷ 規模」

=「利用度 ÷ 規模」×「コスト ÷ 利用度」

=「規模当たり利用度」×「利用度当たりコスト」

「規模当たり利用度」は、面積あたりどの程度利用されているかを示す指標で、「利用度」は、利用者固定型施設では、児童生徒数などとなります。規模あたり利用度は高いほど良い指標です。

「利用度当たりコスト」は、利用度あたりどの程度のコストをかけているかを示す指標で、低いほど良い指標です。

『「規模当たり利用度 × 利用度当たりコスト」の2要素による分析』を公共部門のROA、略して「公共ROA」と呼びます。

